

勅使川原三郎 新作

「呼吸 -透明のカー-」

プレスリリース

勅使川原三郎が自らのダンスメソッドを作品化する初の試み！！

2012年8月25日(土)、26日(日)
KAAT 神奈川芸術劇場<ホール>

1. メッセージ

一回一回の呼吸が世界と結びつく

そして数は消えてゆく

数を数えずに生きる

調和を恐れずに踊る

喜びの技術

絶え間ない呼吸とともに

限界ある生命

無限回の呼吸

透明な力

空気の微分

空気のダンス

勅使川原三郎

2. 公演概要

タイトル: **呼吸—透明の力—**
Breathing—Power of transparency

ディレクション・照明・美術: 勅使川原三郎

出演: 勅使川原三郎、佐東利穂子、川村美恵、
ジイフ、鱈川枝里、加見理一、山本奈々、
高木花文、他ワークショップ経験者たち

スタッフ: 照明技術: 清水弘樹(ハロ)、音響技術: 三森啓弘(サウンドマン)

日時: 2012年8月25日(土)18:00開演(17:30開場)、26日(日)15:00開演(14:30開場)

会場: KAAAT 神奈川芸術劇場<ホール>
〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 281
TEL:045-633-6500(代表) <http://www.kaat.jp/>

チケット発売中!

料金: S席 5,000円 A席 4,000円 (全席指定・税込)
U24 チケット 2,500円(24歳以下対象)、高校生以下割引 1,000円(高校生以下対象)、
シルバー割引 4,500円(満65歳以上)
*U24 チケット、高校生以下割引、シルバー割引は、チケットかながわで電話予約のみの発売。いずれも枚数限定。

■チケットかながわ

【電話受付】 045-662-8866(10:00~18:00)

【WEB 受付】 <http://www.kaat.jp>

【直接販売】 KAAAT 神奈川芸術劇場、神奈川県民ホール(10:00~18:00)、神奈川県立音楽堂(13:00~17:00(月休))

■チケットぴあ

【電話受付】 0570-02-9999(24時間受付/Pコード 421-183)

【WEB 受付】 <http://pia.jp/t/>(PC・携帯)

【直接販売】 チケットぴあ店舗、セブン-イレブン、サークル K・サンクス

■e+(イープラス)

【WEB 受付】 <http://eplus.jp/kaat/>(PC・携帯)

【直接販売】 ファミリーマート店舗内 Fami ポート

■ローソンチケット

【電話受付】 0570-084-003(24時間受付/Lコード 34759)、オペレーター予約 0570-000-407(10:00~20:00)

【WEB 受付】 <http://l-tike.com/>(PC・携帯)

【直接販売】 ローソン店舗内 Loppi

主催: KARAS

共催: 横浜アーツフェスティバル実行委員会

提携: KAAAT 神奈川芸術劇場(指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団)

3. 作品、見所について

◎勅使川原三郎が自らのダンスメソッドを作品化する初の試み

「呼吸-透明の力-」は、勅使川原三郎のこれまでのどんな作品とも異なる発想から生まれました。それは、この作品が完結したダンス作品として提示されるのではなく、表現以前のただ存在し呼吸する身体からはじまり、作品が生まれる寸前までの過程を作品として提示するという発想です。そしてそれは、勅使川原三郎のダンスの成り立ちから、ダンスメソッドが形をなし進化していくプロセスとも重なります。それは、ダンスの新たな可能性への挑戦です。

この作品は、勅使川原三郎が自らのダンスの真髄を作品によって解き明かす初めての試みなのです。この作品によって、観る人は勅使川原のダンスの核心にダイレクトに触れることとなります。「呼吸-透明の力-」は、ダンスを志す人々はもちろん、あらゆる呼吸する人々にとって特別な体験になることでしょう。

◎10代から70代まで幅広い出演者

出演は勅使川原、佐東利穂子とともに、現在勅使川原のもとで国内外公演を経験し目覚ましい成長を続けている10代から20代の若いダンサーたち、勅使川原が教鞭をとる大学で勅使川原のメソッドを学んだ学生たち、そしてKARASダンスワークショップで10年以上にわたってダンスメソッドを経験しているメンバーたち。10代から70代まで、さまざまな年代の人々が出演することによって、メソッドの普遍性と、可能性がより明らかになります。

◎次代の若者たちへのメッセージ

「呼吸-透明の力-」は、勅使川原三郎から次代の若者たちへのメッセージでもあります。

勅使川原は、10代の頃から現在に至るまで、既存の枠組みに捉われず独自の表現を探求し続けてきました。この作品では、これ



©坂田栄一郎



「鏡と音楽」 ©Bengt Wanselius

4. 勅使川原三郎のダンスメソッドについて

本公演そのものとなる勅使川原三郎のダンスメソッド。それは、国際的に高い評価を得ている舞踊家 勅使川原三郎が、この 30 年間、構築し続けてきた自らのダンスの真髄です。

勅使川原のダンスメソッドは、生命活動の根源である呼吸と身体との関係を基盤に、自己の身体を自在に動かす技術を習得することによって、身体に潜む無限の想像力を、生きている実感や喜びと共に表現するものです。

そして、ダンスを志す人に限らず、すべての人に、自分も知らない新たな可能性を発見するチャンスにあたえるものです。

勅使川原のメソッドはこれまで数多の実践を通して、年齢や経験の違いを超えて、目覚ましい成果をあげてきました。

パリ・オペラ座バレエ団やフランクフルト・バレエなど、数多くの世界有数のダンス・カンパニーをはじめ、ロンドンでの5年間にわたる若者を対象とした教育プロジェクトや、ロレックスが傑出したアーティストにメンター(指導者)を委託して実施する若手芸術家育成支援事業(メンター & プロジェ・アートプログラム)など数多くの教育プロジェクトで実践されてきました。

一方、2008 年 新国立劇場と富山市オーバードホール、まつもと市民芸術館との共同プロジェクト「空気のダンス」では、10 代の若者たちを対象に、半年間余りに渡るワークショップと作品創作をおこない、そのうちの何人かは現在、勅使川原のカンパニーのメンバーとして国内外の公演に出演し、目覚ましい成長を遂げています。

「呼吸-透明のカー」は、これまで勅使川原が探究し培ってきたダンスメソッドを、作品という開かれた形で公開する初めての機会であり、勅使川原三郎のダンスの本質そのものを解き明かす、次世代へのメッセージなのです。



Photo by: Laurent Philippe

勅使川原のダンス・メソッドで踊る
パリ・オペラ座バレエ団「AIR」(2003/2006)



Photo by: Makoto Kemmisaki

「空気のダンス」ワークショップの様子(2008)

5. 勅使川原三郎インタビュー (抜粋)

この作品は、ダンスメソッド自体を作品化するメソッドダンスです。ダンスの創作を始めて30年近くやってきましたが、実は僕は作品を創り始める以前からワークショップを行っていたんです。そこでは作品を創るために稽古をするのではなく、ダンスの成り立ちやダンスの可能性を探るための勉強、試みを繰り返してきました。その中で継承された受け売りのダンスではなく、自分のダンスを探っていた。「自分独自の方法論とは何か?」「ダンスはどのように生まれるのか?」何年も勉強に費やしました。そういう意味でダンスメソッドということに僕は初めから意識していました。

今回の作品は、より不安定で、より可能性のある、そしてより原点、より簡素な方法論からそれが如何なるものに発展していくか…そのプロセス自体を作品に出来ないかという発想です。

何も飾りがなくそこに身体があるだけとか、その身体はどのように揺れ、動き始めるのか、それがダンスというものになるのか、ならないのか、というあたりを綿密にやりたい。

今も昔も変わることなく、僕はいつでも作品として完結する以前の不確かなものに興味がありました。画家でも、小説家でも、音楽家でも、いつも創作過程には不完全がいっぱいあるんです。完結されたもの以上に重要なものがあるって、アーティストは感じる訳です。逆に完結したものは僕にとってはとても不十分に感じるんです。可能性というか、何かが生み出される時は必ず不確かな出会いがあるじゃないですか?その不確かさが大事なんです。

ダンスメソッドのいちばん基本にあるのが「呼吸」です。呼吸のあり方を意識しながら、表現する以前の身体を観察すること。つまり視覚的効果よりも先に、身体そのものを学ぶことが重要です。ただし、僕は決まりきった定規で計るような「呼吸」ではないということが、大事な理解だと思っています。太極拳みたいに決まった呼吸法もありますけれど、僕はそれとは逆の崩れた呼吸、ズレた呼吸、不定形な呼吸、不定期な呼吸に興味があるんです。そしてその不定形なものをコントロールすることに興味があります。いかに人間が常日頃から緊張しているか。身体を緩めた方が単純に可動域が広がるし、加速だってしやすい。打つ、蹴る、喋る、すべて緩んでいる方がいい。緩むということが匠のいちばんの素なんです。コントロールすることを知り、緩むことを知れば、「呼吸」もしやすくなる。逆に言えば、「呼吸」をすることによって僕らは緩むことが出来る訳です。それらのことをすべて踏まえ、8月のKAATでは僕なりのメソッドダンスを発表していきたいと思っています。

全文は「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012」公式 HP に掲載

<http://dance-yokohama.jp/ja/interview/cat20/index.html>

※8/20にも更新予定

6. プロフィール



Photo by: Norifumi Inagaki

勅使川原三郎

1981年より独自の創作活動を開始。85年以降、自身のカンパニーKARASと共に世界中で公演を行ない、既存のダンスの枠組みでは捉えられない新しい表現を追求している。呼吸を基礎にした独自のダンスメソッドと、光・音・空気・身体によって空間を質的に変化させ創造するかつてない独創的な作品は、ダンス界にとどまらず、あらゆるアートシーンに衝撃を与え、造形作家、映像作家としての評価も高い。パリ・オペラ座バレエ団、フランクフルトバレエ団、ネザーランド・ダンス・シアター I 他への振付作品、フェニーチェ歌劇場、エクサンプロヴァンス・フェスティバル他のオペラ演出作品等もある。また、ダンス教育に関して独自の理念を持ち、KARAS 創設以前より常に継続してワークショップを行ない、現在に至るまで国内外で若手ダンサーの育成に力を注ぐ。2006年度からは立教大学現代心理学部映像身体学科の教授に就任し、教育現場における新世代との創造活動にも意欲を注いでいる。

【受賞歴】 バニョレ国際舞踊振付コンクール準優勝及びアメリカンセンター特別賞(1986/仏)
日本舞踊批評家協会賞(1988、2001、2008/日)、朝日舞台芸術賞(2001、2002/日)
日本ダンスフォーラム賞大賞(2010/日)
ジャパン・フェスティバル・ファンド・アワード(教育プロジェクトでの受賞)(1997/英)
ニューヨーク・ダンス・アンド・パフォーマンス・アワード(ベッシー賞)(2007/米)
文化庁芸術選奨文部科学大臣賞(2007/日)、紫綬褒章(2009/日)



佐東利穂子

1996年より勅使川原三郎振付の全ての作品に出演。振付/演出助手も務め、「AIR」(パリ・オペラ座バレエ団)等でもダンスミストレスの役割を担う。刃物のような鋭利さから、空気に溶け入るような感覚まで、質感を自在に変化させる佐東のダンスは国際的に高く評価され、世界で指折りの女性ダンサーとして認められている。2009年に初演の勅使川原ディレクションによるソロダンス「SHE-彼女」は、現在も海外各都市からの依頼で公演を続け、高評を得ている。

【受賞歴】 仏ダンス雑誌「Ballet2000」年間最優秀ダンサー賞(2006/仏・伊)
日本ダンスフォーラム賞(2008/日)

その他の出演者

2008年に勅使川原が十代の若者達と創り上げた「空気のダンス」公演プロジェクトに参加し、以降、勅使川原のもとで目覚ましい成長を続ける若いダンサー達が出演。彼らは、勅使川原三郎のダンスメソッドを学び始めるのと同様に、「鏡と音楽」(2009年)、「SKINNERS—揮発するものへ捧げる」(2010年)等、次々に舞台作品の創作、国内外公演を経験し、ダンサーとしてゆるぎない基礎を身につけ、研鑽を続けている。

また、立教大学 現代心理学部 映像身体学科で勅使川原から学んだ卒業生、在校生も公演に参加。その他にも、KARAS ダンスワークショップで勅使川原三郎のダンスメソッドを10年以上に渡り継続して経験しているメンバーによる“勉強会”から、年齢30代～70代までのユニークな参加者達も出演。

7. 近年の主な作品 ※教育プロジェクト関連は次ページ

◆主な振付作品（初演年）

KARASグループ作品

オルガンー呼吸する物理学ー(2012)	サブロ・フラグメンツ(2011)
SKINNERSー揮発するものへ捧げる(2010)	オブセッション(2009)
鏡と音楽(2009)	ダブル・サイレンスー沈黙の分身(2009)
Luminous(2001)	Here to Here(1995/2007)
NOIJECT(1992)	Bones in Pages(1991/2003)
DAH-DAH-SKO-DAH-DAH(1991)	

ソロ作品

勅使川原三郎／ミロク(2007)、 Absolute Zero(1998/1999) 佐東利穂子／SHE-彼女(2009)

振付提供作品

VACANT / ジュネーブ・バレエ (2006) AIR / パリ・オペラ座バレエ団 (2003/2006)
 Para-Dice / ジュネーブ・バレエ (2002) MODULATION / ネザーランド・ダンス・シアター I (2000)
 春の祭典 Le Sacre de Printemps / バイエルン国立歌劇場バレエ団 (1999)
 WHITE CLOUDS UNDER THE HEELS / フランクフルトバレエ団 (PART I 1994, PART II 1995)

◆特別企画

アルヴォ・ペルト「カノン・ポカヤネン」他 共演:ヴォックス・クラマンティス[合唱] / ヤーン=エイク・トゥルヴェ[指揮](2012)
 シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」 共演:マリアヌ・スプール[ソプラノ]他(2011)
 JS/バッハ「シャコンヌ」 共演:庄司紗矢香[バイオリン](2011)
 JS/バッハ「無伴奏組曲」 共演:タチアナ・ヴァシリエヴァ[チェロ](2009) 以上、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン音楽祭における公演

◆オペラ演出

ヘンデル「アシスとガラテア」 エクサンプロヴァンス・フェスティバル製作 (2011) 演出・美術・照明・衣装を担当
 会場 グラン サン ジャン(エクサンプロヴァンス・フランス)
 パーセル「ディドとエネアス」 フェニーチェ歌劇場製作(2010) 演出・振付・美術・照明・衣装を担当
 会場 フェニーチェ歌劇場(ヴェネツィア・イタリア)

◆美術作品

DOUBLE DISTRICT <3D ビデオ・インスタレーション>
 共同製作: Volker Kuchelmeister(iCinema), Karas Tokyo, Epidemic (Paris, Berlin), Le Volcan Scène nationale, Le Havre,
 UNSW iCinema Centre, Sydney, Museum Victoria(協力)(2008)
 Fragments of Time <ガラスのインスタレーションとライブ・パフォーマンス>
 YOKOHAMA TRIENNALE “TIME CREVASSE” (神奈川)で製作 (2008)

◆映像作品

「A Boy Inside The Boy(少年の中の少年)」(2010) 監督・編集:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎、佐東利穂子 他
 Friction of Time-Perspective Study vol.2(2008) 監督・編集:勅使川原三郎 出演:勅使川原三郎 佐東利穂子
 製作:山口情報芸術センター(YCAM) KARAS
 A Tale Of (2005) 監督・編集:勅使川原三郎、ラヴィ・ディープレス 出演:宮田佳 佐東利穂子
 Perspective Study vol.1 (2004) 監督・編集:勅使川原三郎 出演:佐東利穂子、ジュナイド・J・センディ
 製作:宮田佳、財団法人神奈川芸術文化財団 協力:BarkART1929, Rolex Mentor and Protégé Arts Initiative
 T-CITY(1993) 監督・撮影・編集:勅使川原三郎 出演:山口小夜子、宮田佳 他 企画:愛知芸術文化センター/愛知県文化情報センター

◆主な著書

映像と身体 立教大学映像身体学科編 (2008) せりか書房 「身体思考」:勅使川原三郎
 現代思想 vol.35-6, 5月号(2007) 青土社 「空気の目」:勅使川原三郎
 光と比重 (2006) KARAS、
 骨と空気 (1994) 白水社 勅使川原三郎

8. 教育プロジェクト関連

S.T.E.P. (Saburo Teshigawara Education Project) (1995～2000・英/フィンランド)

1995年、LIFT(ロンドン国際演劇フェスティバル)教育プログラムにおける知的障害児達によるパフォーマンス「STILL STANDING」の創作過程と発表会において協力。勅使川原のメソッドが、あらゆる人達にも有効であり、むしろ彼らが“文化的価値のある高度な知的感情を育むこと”を促す画期的な方法論であると支持を得た。96年からはThe Place(舞踊・教育機関/イギリス)も加わり相互協力・交流し、青少年達にグローバルな視野を持たせたいとLIFT教育プログラムの一環としてS.T.E.P.を立ち上げ、以後、継続的にワークショップを行なうこととなった。ここでの積み重ねの成果は「Invisible Room」(勅使川原の演出・構成・振付)というダンス作品を生み、ロンドンのICA(Institute of Contemporary Arts)で公演。S.T.E.P.は98年度ジャパン・フェスティバル・ファンド・アワード(英)を受賞、賞金はその後のLIFTの活動に役立てられた。

Flower Eyes (2000・英/フィンランド)

1996年にLIFT、The Place、KARASの3者協働により始められた教育プロジェクトS.T.E.P.を進化させたS.T.E.P.2000が、新しい生徒を迎え、98年より企画始動。ロンドンとヘルシンキで1年に渡り積み重ねられたワークショップの成果は、勅使川原の指揮のもと「Flower Eyes」の公演で結実。公演には視覚障害を持つダンサー数名を含むワークショップ参加者全員が舞台に立った。

“極めて誠実で、深い芸術性を示し、時に美しく幻惑的なダンスであった。” *Hufvudstadsbladet 紙(フィンランド)*

Prelude for Dawn (2004・仏)

ロオス(仏)の公立盲学校の生徒、及びリール(仏)の視覚障害児童の為に創作された作品。2003年から1年間かけて行なわれたワークショップの成果を舞台作品化。

“子供達は勅使川原を信頼して、呼吸で舞台の広がりをつかみ、お互いの在りかを耳で感じ取り、動く。—おぼつかない動きも勅使川原はあえて見守り、大事にした。それが各々の個性を舞台の上で一際輝かせた。” *Liberation 誌(仏)*

The Rolex Mentor and Protégé Arts Initiative (2004～2005・日/他)

ロレックス社の社会貢献事業“メンター&プロトジェ・アートプログラム”ダンス部門のメンター(指導者)として、次世代の芸術家の育成を委託される。プロトジェとして選ばれたエチオピア人ダンサー、ジュナイド・ジュマル・センディは勅使川原のダンス作品「KAZAHANA」と映像作品「Perspective Study vol.1」に出演。(参照: www.rolexmentorprotege.com)

空気のダンス (2008・日)

十代の若い才能と共に新しい美の地平を目指す勅使川原三郎ディレクションの新プロジェクト公演。新国立劇場(東京)、富山市オーバード・ホール(富山)、まつもと市民芸術館(長野)。出演者のうち数名は、その後も勅使川原とKARASメンバーの指導のもと研鑽を重ね、現在では勅使川原作品に欠かせない存在感のあるダンサーに成長している。

立教大学 現代心理学部 映像身体学科 (2006～現在・日)

2006年、勅使川原は立教大学に新設された現代心理学部映像身体学科の教授に就任し、大学という教育現場においても、創造的な思考と試みを重ねている。(参照: www.rikkyo.ne.jp/grp/gendaishinri/)

ワークショップ (1985年以前から～現在・日/海外各都市)

勅使川原はKARAS結成以前にワークショップを開始し、現在もメンバーと共に、自らの身体を通じた思考を継続。ダンサーはワークショップにおいて動きのメカニズムを知ることとなる。ダンサー育成はもとより、あらゆる状況、年齢層の教育的場においても有効である。

9. 公演スケジュール

「鏡と音楽」エルサレム公演(イスラエル)

公演日:6月7日(木)~9日(土)

会場: The Jerusalem Theatre, Sherover Hall 主催: Israel Festival、Jerusalem

「encounters – piece d' occasion」プラハ公演(チェコ)

公演日:6月23日(土)、24日(日)

会場: Archa Theatre 主催: Tanec Praha festival

「SKINNERSー揮発するものへ捧げる」モンペリエ公演(フランス)

公演日:6月30日(土)、7月1日(日)

会場: Opéra Berlioz – Le Corum 主催: Montpellier Danse

「鏡と音楽」ベルリン公演(ドイツ)

公演日:8月10日(金)、11日(土)

会場: Haus der Berliner Festspiele 主催: Tanz im August Hebbel am Ufer

「呼吸 ー透明のカー」横浜公演(日本)

公演日:8月25日(土)、26日(日)

会場: KAAT 神奈川芸術劇場<ホール> 主催: KARAS

「オブセッション」ブレダ公演(オランダ)

公演日:10月16日(火) 会場: Chassé Theater NV 主催: Chassé Theater NV

「鏡と音楽」ブレシア公演(イタリア)

公演日:10月20日(土)

会場: TEATRO GRANDE 主催: TEATRO GRANDE、International Music and Arts

「鏡と音楽」リヨン公演(フランス)

公演日:10月24日(水)~26日(金)

会場: Maison de la Danse Main Hall 主催: Maison de la Danse

「鏡と音楽」ワルシャワ公演(ポーランド)

公演日:10月31日(水)

会場: Teatr Wielki – The National Opera Sala Mlynarskiego

主催: Crossroads 2012 . XIX International Meeting of Live Arts

「新作 グループ作品」(F/T12参加) 東京公演(日本)

公演日:11月下旬 会場: 東京芸術劇場 プレイハウス

「新作 グループ作品」東京公演(日本) ※公募ワークショップ参加者との作品を予定

公演日:2013年1月下旬

会場: 東京芸術劇場 シアターイースト 主催: 東京芸術劇場

※ 詳細は東京芸術劇場 HP (http://www.geigeki.jp/info/2012_006.html) をご参照下さい